

“マスクはがし” “死者数隠し” …9 波到来でも岸田首相は「コロナは終わった」ことへ

4/6 女性自身

コロナが流行するごとに死者数が増えてきた日本。第8波で過去最多の死者数を記録したばかりにもかかわらず、岸田文雄首相（65）は感染対策を形骸化しようとしている。

5月8日から新型コロナの感染症法上の位置づけが、現在の2類相当から季節性インフルエンザと同様の第5類に移行する。これに伴い政府は、「コロナは終わった」ことにするための準備を着々と進めているという。

マスク着用が個人の判断に委ねられた3月13日、岸田首相は、マスクなしで初官邸入り。

「私自身、マスクを外す場面が増えると考えている」と、“通常モード”をアピールした。さらに同日、厚労省では職員がノーマスクで仕事する姿を報道陣に公開するなど、政府はあの手この手で、市民のマスクを剥ぎにきている。

そんななか、気になるニュースが。3月25日付の毎日新聞によると、これまで毎日発表されていたコロナの死亡数が、最短でも2カ月後の発表になるという。

「5類になってからは、職員が人口動態調査を基に手作業で集計することになるので、おそらく2カ月以上かかるでしょう。もう少し早い集計方法を模索中です」（厚労省関係者）

まるで“死者数隠し”のような対応だが、医療関係者は、どう受け止めているのか。

■ 自己負担化で検査・通院控えに

インターパーク倉持呼吸器内科、院長の倉持仁さんは、こう斬り捨てる。

「いまだに、検査→診察→治療という迅速な流れが構築されていない日本において、死者数や感染者数のタイムリーな発表をやめてしまうということは、〈もう国は何もしません。自己責任でやってください〉というメッセージに等しい。2カ月後に知らされても、対策の立てようがありませんから」

これまで毎日行われていた感染者数の発表も、5類移行後は行われなくなる。代わりに約5千カ所の定点医療機関が、週ごとに感染者数を報告。国立感染症研究所がそれをホームページ上で公表するというが……。

「診療控えも進むでしょうし、コロナ流行当初からPCR検査を抑制してきたので正確なデータは取れないでしょう」（倉持さん）

都内の救急病院で、コロナ患者の対応にもあたってきた医師の谷川智行さんも、こう懸念を示す。

「いくつかの病院に状況を聞きましたが、5類移行後は空床確保料を含め、あらゆる補助金が段階的に減らされるので、〈コロナの入院病床を維持すればするほど大赤字になってしまう〉と頭を抱えているところが多い」

政府は5類移行に伴い、発熱外来を現在の約4.2万件から最大6.4万件に。入院受入れ病院を現在の約3千件から8千件に増やすことを目指しているというが、

「各地に作られたコロナの臨時入院施設の閉鎖が始まっています。いったん閉鎖すると新たに作ることはできず、病床は減る可能性が高いと思います」（谷川さん）

5類移行に合わせて、コロナが収束してくれるならよいが、現実はそう甘くない。東京都では1週間連続で新規感染者数が前週を上回り、3月29日時点で前週比プラス629人

に。全国的にも増加傾向で、現場の医師たちからは「第9波の始まりか」という声が上が
り始めている。

「より感染力の強いオミクロン派生株が増え始めていますし、マスクを外そうということ
も含めて警戒感が弱まっているので、感染拡大は避けられないでしょう。検査や受診も自
己負担になりますし、抗ウイルス薬も自己負担になれば数万円の出費に。そうなれば、さ
らに受診控えが起き、感染者の増加がより見えにくくなるのです」(谷川さん)

結果的に症状が悪化して救急車を呼ぶ人が増え、病床がひっ迫。入院先が見つからないと
いう“医療崩壊”がふたたび繰り返されることになる。

直近の第8波は過去最悪の死者数だった。1カ月で1万人以上の方が亡くなったにもかか
わらず、岸田首相は対策をアップグレードするどころか、ダウングレードしようとしてい
るのだ。

